



Kama-City
福岡県嘉麻市市勢要覧 2019

嘉麻市

温故知新



福岡県嘉麻市市勢要覧 2019



Kama-City

発行

嘉麻市

〒820-0292 福岡県嘉麻市岩崎1180番地1
TEL 0948-42-7411 FAX 0948-42-7097
<https://www.city.kama.lg.jp/>

制作 株式会社NOTE
平成31年4月発行(令和2年7月 第2刷発行)

特集

温故知新

嘉麻市の未来を

3つのキーワードから考える

P02 **Keyword 01** 自然との共生
・山の恵み ・川の恵み

P06 **Keyword 02** 行き交う人・もの・情報
・古代の巨大集落と王の誕生
・交通路の整備と賑わいの創出

P10 **Keyword 03** 地域の絆 祈りと祭り
・祈りのかたち
・現代へと引き継がれる伝統

P14 四季の催事

P15 嘉麻市の豊かな暮らしをつくる

P16 教育 | 生涯学習

P18 教育 | 社会教育施設

P20 教育 | 芸術・文学

P22 教育 | 学校教育

P24 運動・スポーツ | 体をつくり、健康に

P26 福祉 | 健康に過ごせるまち

P28 嘉麻市の大地の恵みが育む 農業・酪農

P30 誘致企業鼎談

P32 嘉麻市誘致企業振興会 会員企業一覧

P34 新たな嘉麻へ。

P36 Message 嘉麻市から全国へ羽ばたいた著名人

P38 市長あいさつ | 嘉麻市のあゆみ | 議会

P40 Kama-City Information



嘉麻の古を知り
そこから未来を
作り上げていく



嘉麻市域の歴史や文化を振り返ると、3つのキーワードでつづることができそうです。それは、「自然との共生」、「行き交う人・もの・情報」、「地域の絆」。これからのまちづくりのヒントも、市内に残る先人たちの足跡をたどることで、見えてくるものがあるのではないのでしょうか。地域の貴重な歴史文化遺産には、未来へのメッセージが刻まれているのです。



温故知新

馬見山
(978m)

屏山
(927m)

古処山
(860m)



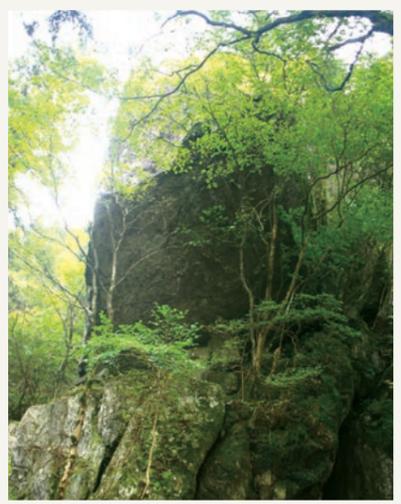
嘉穂アルプス

馬見山(978m)、屏山(927m)、古処山(860m)の三連山からなる嘉穂アルプス。2016年度には、九州で2例目となる日本山岳遺産に認定され、登山客が増えるきっかけにもなりました。見所も豊富で、ツゲの原始林の他にオオキツネノカミソリ、ニシキキンカメムシなどの貴重な生態系が保全されている自然豊かな山域です。全国的に有名な山域ではありませんでしたが、嘉穂三山愛会の皆さんの活動が評価され、日本山岳遺産認定につながりました。



げんしりん
国指定
特別天然
記念物
ツゲの原始林

ツゲの原始林は、嘉麻市と朝倉市にまたがる古処山の山頂付近に広がっており、日本最大級の規模を有する極めて貴重なものです。ツゲの種類は、アサマツゲ、オオヒメツゲが大部分ですが一部にマルハツゲも見られ、古木は樹齢1000年をこえるものもあっていわれています。



ごしんじょいわ
御神所岩

御神所岩は、馬見山の頂上近くにある高さ24mほどの巨岩で馬見神社の上宮と伝えられています。こうした巨岩は古くから神霊が宿るものとして信仰の対象となってきました。断崖となる御神所岩からは嘉穂盆地が一望でき、中・近世においては英彦山山伏達の「覗き行」が行われていたと考えられています。

はくぼさん
福岡県
指定天然
記念物
白馬山のバクチノキ

多様な植生がみられる原生林では、木々が大きく育ちます。白馬山にあるバクチノキ大木2本は、樹齢400年を越えると言われ、そのうちの1本は胸高周囲2.6m、樹高約15mにもなります。この一風変わった名前には、樹皮がはがれ落ちる姿を「博打に負けて衣をはがれる」ことに見立てられ名付けられています。



山の恵み

国道211号線を東峰村方面に進むと、右手前方に馬見山、屏山、古処山の3つの山が連なる雄大な景色が私たちを迎えてくれます。嘉穂盆地でひととき高くそびえ立つ古処山地は、近年「嘉穂アルプス」の愛称で親しまれるようになり、「日本山岳遺産」にも認定されました。古処山山頂付近では、国指定特別天然記念物である「ツゲの原始林」をはじめとして、貴重な植生をみることが出来ます。また、これらの山々は古来、霊峰として信仰の対象にもなってきました。現在、九州自然歩道として整備

されている古処山地の縦断コースは、英彦山修験道の峰入りとして宝満山に向かう山伏たちの修行場でもありました。馬見山の「御神所岩」、古処山の「奥の院」は山岳信仰の歴史を今に伝えていきます。古処山地と並んで自然と文化が見事に融和している山がもう一つあります。下田地区の大法白馬山(261m)です。低山ながら、白馬山の森は、多くの里山が戦後の植林政策によってスギやヒノキの人工林と姿を変えていった中で、筑豊に残る希少な原生林となっています。また、白馬山は山岳信仰の場として利用されてきた山でもあり、「奥の院」をはじめ巨石信仰や伝承が色濃く残っています。

先人から受け継いできた
豊かな自然は嘉麻の宝

嘉麻市について
私がお案内させていただきます!

ナビゲーター

嘉麻市 まつうら たかあき
教育委員会 松浦 宇哲

文化財の仕事に携わり約20年、専門分野は古墳時代の考古学。最近では、地域の歴史文化についての講演も多くなりました。これからは筑豊の魅力を多くの人に伝えていきたいと思っています。





鮭神社 さけじんじや

大隈地区にある鮭を神の使いとして祀る神社で、鮭を鮭塚に奉納する献鮭祭は毎年12月13日に行われています。鮭が遠賀川を無事に遡上した年は豊作とされ、氏子は鮭を食べられないという禁忌もみられます。また、神社には海幸彦と山幸彦の話が伝わっており、嘉麻の豊かな自然が神話の母体となっています。



遠賀川源流より
流れる水が育む
豊かな文化

恵みをもたらす
源流は市民の宝であり
大切に守っていききたい
自然遺産です!



おんががわ げんりゅうてん 遠賀川の源流点

北部九州最大の川であり、一級河川でもある遠賀川。その源流は馬見山の山中にあり、湧き出た水は穂波川や彦山川などが合流して響灘へと注ぎます。国道211号線を東峰村方面に向い、馬見山の山腹にある遠賀川源流公園から約300mほど進むと遠賀川の源流点へ到達します。

Column

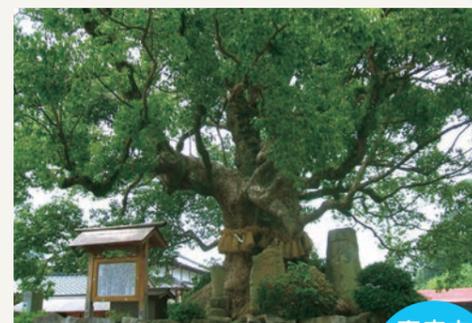
自然と共生する縄文のムラ ～アミダ遺跡～

大力地区で発見されたアミダ遺跡は、北部九州を代表する集落遺跡としてよく知られています。中央の広場を囲むように環状に住居が配置されている様は、縄文人の世界観を表しています。また、早世・死産した子どもは、生命の再生や循環を願う土器に納められ、住居近くに丁寧に埋葬されました。

現代の私たちとは全く異なる文化を持つ社会がおよそ3千年以上前の嘉麻に存在していたことをアミダ遺跡は教えてくれます。



アミダ遺跡出土
魚形ペンダント



さぶろうまる おお 三郎丸の大クス

嘉麻市
指定天然
記念物

口春地区には、牛を川に引きずり込もうとして、逆に村中まで引きずられてきたカッパを村人が大クスにくくりつけて懲らしめたという話が残っています。カッパは妖怪である一方で、水神として祀られる存在でもありました。

馬見山を水源とし、響灘に注ぐ全長61kmに及ぶ遠賀川。現在、22の市町村が流域に位置し、その恩恵を受けています。豊かな水量は、穀倉地帯を形成し流域の人々の暮らしを支える一方で、しばしば大きな水害をもたらすこともあります。こうした川への畏れと感謝の念は表裏一体となっており、遠賀川流域にさまざまな祭りや川にまつわる伝承を生み出してきました。

嘉麻市の山野・口春地区には、水神様を祀る楽打ちの伝統芸能や河童伝承が色濃く残っています。また、上流の大隈地区には鮭を神の使いとして祀る全国でも非常に珍しい鮭神社があります。これらは、まさに遠賀川に育まれた文化といえるものでしょう。

川の恵み



福岡県
指定天然
記念物

せんずがわ おうけつぐん 千手川の甌穴群

上臼井地区の千手川が蛇行する300mほどの範囲に、甌穴(ポットホール)と呼ばれる各所に大小の穴があいた奇岩群が見られます。甌穴は、水流、水量、地質条件などがそろわないと形成されることのない自然の造形です。千手川の甌穴群は、すでに江戸時代には村の名所としても知られていました。

人・もの・情報

古代の巨大集落と

王の誕生

古代の馬見山山麓には、「魏志倭人伝」に登場する邪馬台国時代の巨大集落が営まれていました。集落跡からは、遠方から持ち込まれた土器や朝鮮半島に由来のある貴重な鉄製農具などが出土しています。古代の嘉麻は、さまざまな地域や職業の人々が往来する交通の要衝として、交易活動などが盛んに行われていたようです。集落内では、中国製の銅鏡をはじめ貴重な金属品や玉類などを副葬した有力者層の墓も発見されています。

やがて、こうした有力者層の中から「王」と呼ばれる強大な権力を持った人物が登場しました。沖出古墳は、まさに「王墓」にふさわしい規模と内容を兼ね備えています。「王墓」の造営には多くの人々が動員され、最先端の情報や技術が投入されました。「王墓」は地域の繁栄を約束する記念物でもあったのです。巨大集落や大型古墳の存在は、当時の豊かな地域力を象徴するもので、その背景には、絶え間ない人々の交流と先進情報の伝播がありました。



沖出古墳は
普段、古墳公園として
自由開放しています！



福岡県
指定史跡

古代の嘉麻の繁栄を 象徴する沖出古墳。



沖出古墳には、貝輪をモデルに作られたヤマト王権とゆかりの深い3種類の「腕輪形石製品」と呼ばれる宝器が副葬されており、特別な力をもった人物が埋葬されていたようです。

おきでこふん

沖出古墳

漆生地区にある沖出古墳は全長69.5mの前方後円墳で、4世紀末頃に造られた古墳です。埋葬施設は度重なる盗掘を受けていたために、副葬品の大半が持ち去られていましたが、北陸の石材で作られた腕輪形石製品などの宝器が発見されています。また、王の棺に用いられた石材は、唐津湾周辺を産地とする砂岩が用いられているようで、古墳造営の背景に広範な人々の交流がうかがえます。

福岡県
指定史跡

かまたばるやよいふんぼぐん

鎌田原弥生墳墓群

馬見地区にある弥生時代の墳墓群で、木槨墓(もっかくぼ)を中心に甕棺墓(かめかんぼ)や木棺墓(もっかんぼ)など総数20基の墓で構成されています。墓の中には、青銅製武器やヒスイ製勾玉、碧玉製管玉などの希少品を副葬するものがあり、有力者層の出現を示しています。墳墓群は紀元前2・3世紀頃から紀元前後に造営されており、邪馬台国時代にさきがける有力者集団の墳墓群として筑豊を代表する遺跡となっています。



木槨墓と勾玉
発見された「木槨墓」は木棺を木板で囲った特殊な構造で、中国大陸風の先進的な墓制を採用していました。また、勾玉は北陸産のヒスイを利用して作られています。



銅戈(どうか)
中国大陸に起源がある青銅製の武器で、3本の銅戈が出土しています。

Column

嘉麻市の地名由来

「嘉麻の『嘉』は嘉穂の頭文字ですよ！でも『麻』って何ですか？」こうした質問をしばしば受けることがありますが、実は「嘉穂」の地名より「嘉麻」の地名の方がずっと古い歴史を持っています。

8世紀、律令制の行政区画として全国に「郡」が成立し、現在の嘉麻市、飯塚市、桂川町にあたる地域には、嘉麻郡と穂波郡の2つの郡が置かれることになりました。やがて明治時代に嘉麻郡と穂波郡の両郡が合併することになり、それぞれの頭文字をとった「嘉穂郡」が新しく成立するのです。



国登録
有形
文化財

寒北斗酒造 かんぼくとしゅぞう

寒北斗酒造は、秋月街道と小石原街道が交差する「大隈町」の要所に広大な屋敷を構え、江戸時代には福岡藩主や伊能忠敬などの重要人物が宿泊する本陣としての役割も担っていました。

主屋の表構えは重厚で内部意匠の質は高く、随所に古式を残した町屋建築として、幕末の建築ながら秋月街道沿道を代表する町屋建築として評価されています。



豊臣秀吉が贈ったとされる陣羽織が残っています！

国指定
重要
文化財

一夜城伝説と秀吉ゆかりの地

天正15年(1587)、豊臣秀吉は嘉麻郡を支配していた秋月氏攻略のため、大軍を率いて「大隈町」にきました。益富城に陣を構えた秀吉は、敵の戦意を喪失させるため城下にかがり火をたかせ、町の人々には戸板を持って来させるなどして、あたかも新しい城壁を一晩で造りあげたかのように見せかけました。

嘉麻市内にはこの一夜城伝説の舞台となった益富城跡のほか、陣羽織を拝領する町衆を描いた須賀神社の絵馬、秀吉を祀る豊臣神社、秋月氏が降参したと言われる降参畑など秋月街道沿いに秀吉ゆかりの地が残っています。

かもんさしぬいじんばおり
華文刺縫陣羽織

背にあざやかな赤色の五七桐の家紋があらわれた陣羽織。秀吉に協力した大隈町民に贈った品と伝えられています。



所蔵/上町・三日町・五日町



益富城跡 ますとみじょうあと
益富城跡には、石垣や土塁・空堀の跡が残っており、現在は自然公園として整備されています。



豊臣神社 とよとみじんじや
大隈町の須賀神社境内にあります。町の人々の豊臣秀吉に対する思いが感じられます。



かまがわすいうん

はったんだふないりばあと

嘉麻川水運と八反田舟入場跡

上白井地区にある水神社は、江戸時代に秋月藩の蔵屋敷と舟入場が置かれた場所でした。鳥居の脇に残る安政5年(1858)の石碑には、上白井村と馬見村の大庄屋の尽力で、寛政7年(1795)に水運が拓かれ、長年、年貢米を飯塚まで陸路で運搬していた百姓の負担が軽減し地域が繁栄したと刻まれています。

水運の開拓と舟入場の設置により、村に秋月藩内各地の年貢米が集積されるようになり、多くの人々が集う場となったことがうかがえます。

八反田舟入場跡は現在水神社となっています。

多くの人々がこの地を行き交い、まちの発展を担った。

秋月街道と大隈町

秋月街道は、一般の通行はもとより大名の参勤交代路としても利用されており、豊臣秀吉の九州出兵の際には、秀吉軍が進軍した道としても知られています。

江戸時代初期に益富城の城主として、当地に着任した後藤又兵衛基次と後任の母里太兵衛友信は、秋月街道沿線に位置し交通の要衝となる益富城下の「大隈町」に人々を集住させるなどまちの整備に努めました。益富城廃城後も「大隈町」は、宿場町・在郷町として発展し、嘉麻郡・嘉穂郡の経済の中心地となりました。



かつての大隈町の風景



地域の絆

祈りと祭り

先人の祈りが文化財として
かたちに残る

祈りのかたち

豊かな自然を抱える嘉麻には、自然に宿る神霊に捧げるさまざまな「祈りのかたち」がみられます。また、長引く戦乱や天災による社会不安は、太平の世を願う人々の「祈りのかたち」として残されました。今も市内に点在する「祈りのかたち」は子どもや家族を想う先人たちの切実な願いの表れでもありました。



仁王像
邪悪なものの侵入を防ぐ仁王像。



泣いたり、笑ったり、豊かな表情で見る人を惹きつける。

山野の石像群

山野地区の若八幡神社の向かいの丘に、通称「五百羅漢」と呼ばれる石像群があります。ひときわ目立つ仁王像をはじめ、350体ほどの石像が残っています。よく見ると、仏像もあれば、神像もあり、姿勢好もさまざま、かつての神仏習合の名残を今に伝えています。



はせやま きょうづつくん 長谷山の経筒群

12世紀頃の嘉麻郡では、末法思想の影響を受けて、仏の教えを未来に伝えようと経筒に入れた写経を土中に埋納する風習が流行りました。長谷山にはこうした経塚がたくさん造営されており、山頂や山腹からは陶器製や青銅製の経筒が発見されています。



「龍」が刻まれた弥生土器

遠賀川の白門で採集された土器の破片には不思議な図像が描かれていました。これは、およそ2千年前の祖先が描いた「龍」の絵と考えられています。「龍」は中国大陸に起源をもつ霊獣で水神としてみなされることもあり、この土器は、遠賀川の神に祈りを捧げるために特別に作られた容器だったのでしょうか。



しょうへいとう しょうへいぶつ
福岡県指定有形文化財
正平塔・正平仏

平地区の熊野神社の近くに正平8年(1353)の年号が刻まれた石造三重塔と阿弥陀如来石仏が祀られ、それぞれ正平塔、正平仏と呼ばれています。当時は南北朝時代にあたり、南朝側の元号である「正平」の銘がみられることから、この辺りが南朝側の勢力下にあったことがうかがえます。一方、隣の下山田地区には北朝側の勢力を示す安国寺が置かれており、当時の争乱を物語っています。

あんこくじ 安国寺と びやくえかんのんざそう 白衣観音坐像

下山田地区にある安国寺は、足利尊氏の奏請により暦応2年(1339)に創立したと伝わっています。また、戦に敗れた足利尊氏が白馬山中に逃れ、岩屋に安置されていた仏像に祈願したところ、九死に一生を得たという伝承も残っています。尊氏が祈願したとされる仏像は、松材一木造(高さ49.5cm)の端正な顔立ちの「木造白衣観音坐像」で、室町時代の作と考えられています。



昔の人たちは戦乱や災害・農作物の不作などの際には神仏に助けを求めました!

